西条市 地域公共交通活性化協議会

資料 1

山間部モデル地区における交通体系の検討

平成 27 年 12 月

I. 加茂地区

1-1 地域の状況

(1)位置•地勢

- 〇加茂地区は旧西条市の南部にあって、周囲を 1,100m~1,700m級の山に囲まれた山間地域で、その谷間を縫うように国道 194 号が走り、高知県いの町へとつながっている。
- 〇加茂地区内においても、国道 194 号沿いに位置する集落と、国道から離れた標高の高い 集落の二つに分かれており、同じ集落でも環境が大きく異なっている。

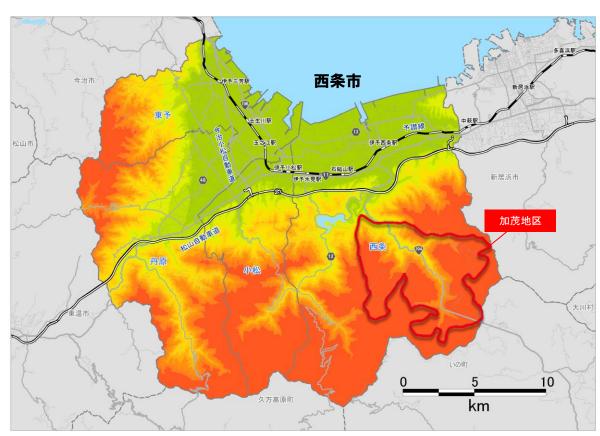


図 1 当該地域の地勢

(2)世帯数・人口

〇加茂地区の世帯数、人口は以下のとおりである。高齢化率は非常に高く、高齢化率が 100% の集落が 4 集落ある。高齢化率 50%以上の集落が 22 集落のうち 18 集落に上り、地区全体でも 59.6%となっている。

表 1 加茂地区の世帯数、人口、高齢化率の状況

										平均年齢	
集落名	世帯数	人	男性	女性	65 歳			高齢化率 (%)	男性	女性	平均
		* * *		又江	以上 以上		女性		カロ	XII	十四
藤之石上	4	5	1	4	5	1	4	100.0%	79	81	80
藤之石下	5	8	4	4	8	4	4	100.0%	74	77	75
中屋	4	5	2	3	4	2	2	80.0%	68	74	72
中谷	2	ω	1	2	2	-	2	66.7%	56	85	75
宮の首	3	З	1	2	2	-	2	66.7%	52	85	74
土居	1	2	1	1	0	ı	-	0.0%	63	60	61
久保	5	8	4	4	6	З	3	75.0%	74	79	77
御代地	2	2	1	1	2	1	1	100.0%	91	90	90
超	2	4	1	3	ω	1	2	75.0%	78	67	70
晚茶	1	3	1	2	2	1	1	66.7%	73	55	61
八の川下	1	1	-	1	1	-	1	100.0%	-	88	88
吉居	1	3	1	2	1	1	-	33.3%	93	-	93
下津池	10	14	6	8	9	2	7	64.3%	52	76	66
風透	7	16	7	9	4	1	3	25.0%	46	54	51
中の池	10	15	4	11	9	თ	6	60.0%	70	59	62
黒代	9	11	6	5	6	2	4	54.5%	61	76	68
川来須	2	3	1	2	2	1	1	66.7%	83	77	79
大平東	3	3	2	1	2	1	1	66.7%	74	80	76
大平西	4	8	5	3	2	-	2	25.0%	24	61	38
下分	3	4	2	2	2	1	1	50.0%	65	63	64
河ヶ平上	8	20	11	9	10	6	4	50.0%	58	58	58
河ヶ平下	5	10	4	6	8	4	4	80.0%	79	70	74
計	92	151	66	85	90	35	55	59.6%	-	-	-

1-2 加茂線の状況

(1)運行概要

○加茂線は、上り4便、下り4便と1日4往復しており、系統キロ数は22.4kmである。 ○平成25年の利用者数は7,760人で、収支率は16.6%と低い。

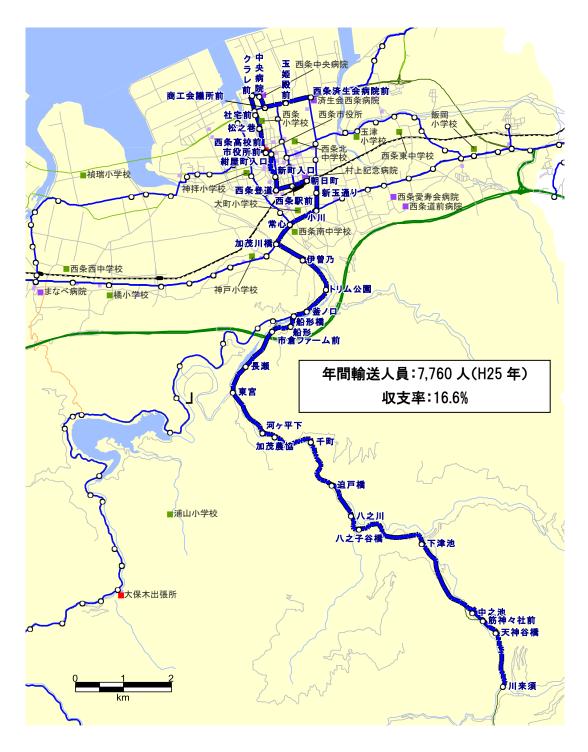


図 2 加茂線路線図

(2) 利用状況 (乗降調査結果より)

○平成25年に行った乗降調査の結果は以下のとおりである。

表 2 調査結果の概要

調査日	平成 25 年 9 月 17 日	(火) ~19日(木)
延べ利用者数	上り 41 人(13.6 人/日)	下り 25 人(8.3 人/日)
1便当たり利用者数	上り 3.4 人/便	下り 2.1 人/便

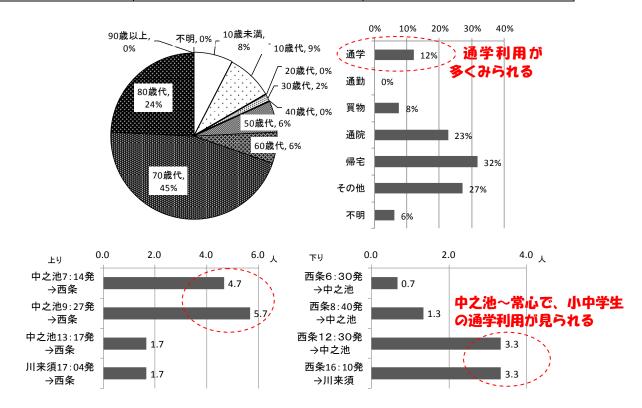


図 3 便別乗降者数(1日当たり平均)

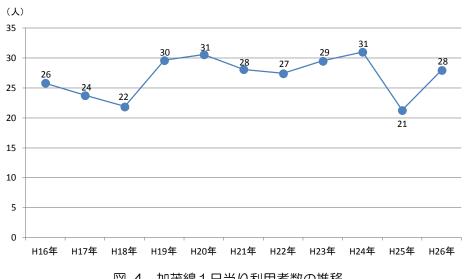


図 4 加茂線1日当り利用者数の推移

表 3 加茂線年間利用者数の推移

項目	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
年間利用者数	9,428	8,669	7,978	10,809	11,166	10,260	10,007	10,767	11,322	7,760	10,210
1日当り利用者数	26	24	22	30	31	28	27	29	31	21	28

(単位:人)

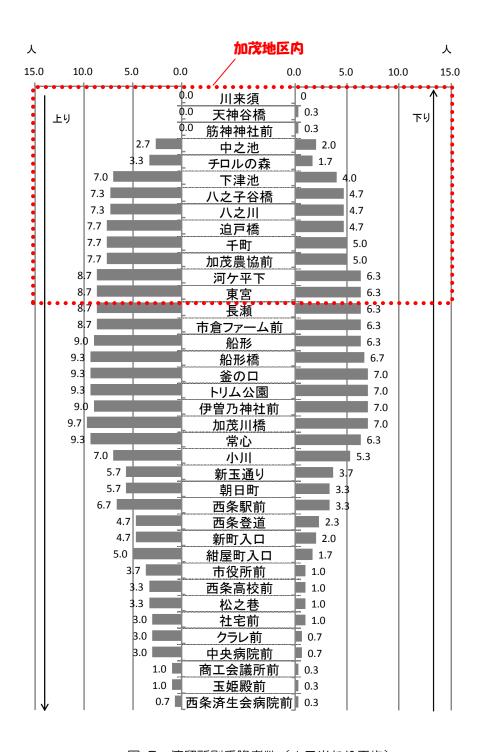
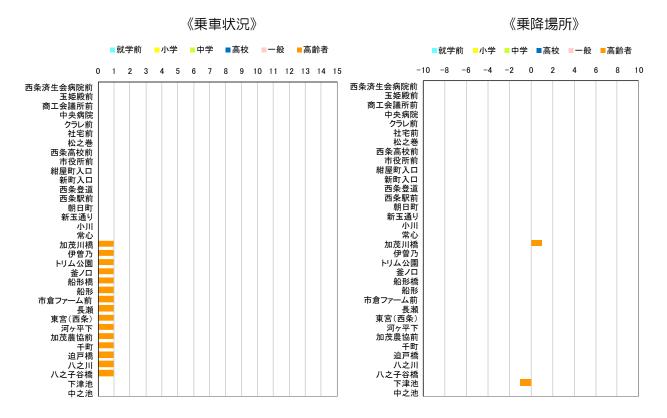


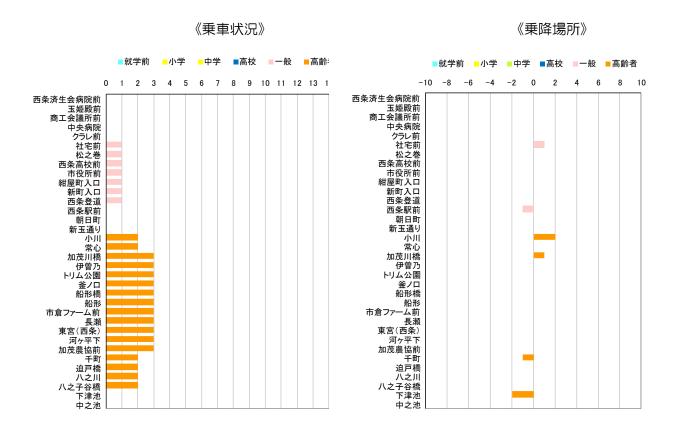
図 5 停留所別乗降者数(1日当たり平均)

加茂線乗降調查結果(中之池・川来須⇒済生会病院)

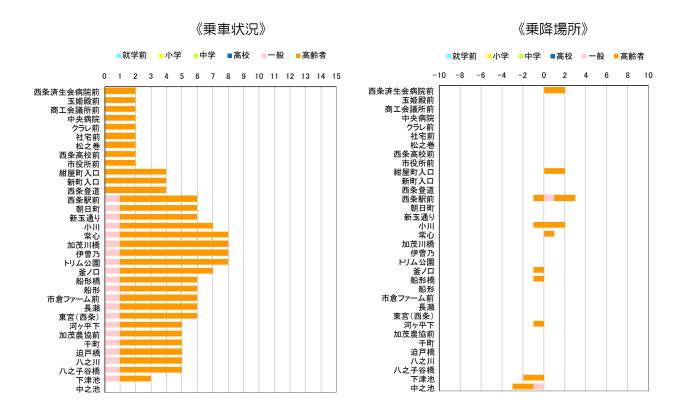
■済生会病院 6:30 発⇒中之池 7:11 着(9/17 日・9/18 日・9/19 日調査の合計)



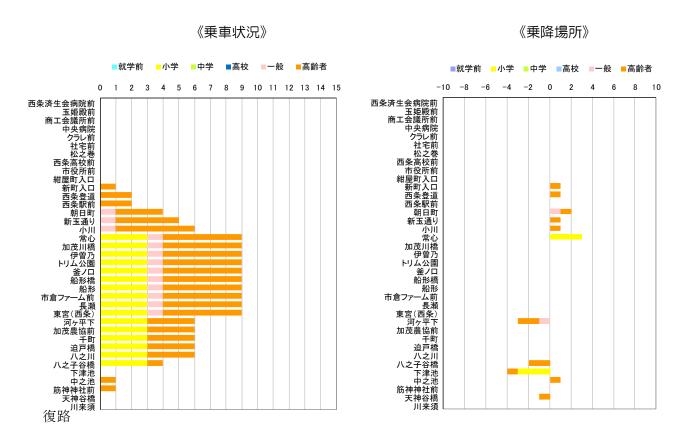
■済生会病院8:40発⇒中之池9:24 着(9/17日・9/18日・9/19日調査の合計)



■済生会病院 12:30 発⇒中之池 13:14 着 (9/17 日・9/18 日・9/19 日調査の合計)

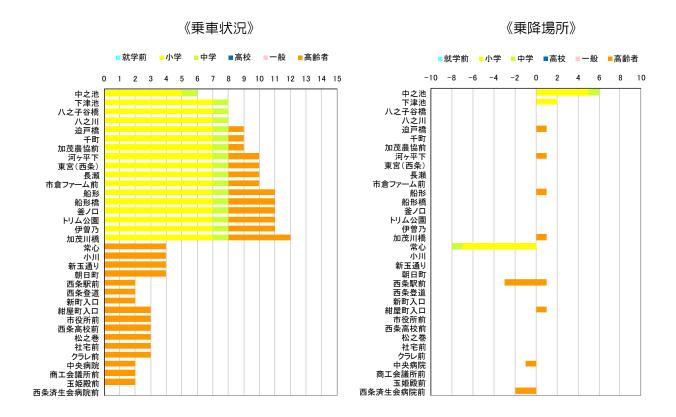


■済生会病院 16:10 発⇒川来須 16:59 着(9/17 日・9/18 日・9/19 日調査の合計)

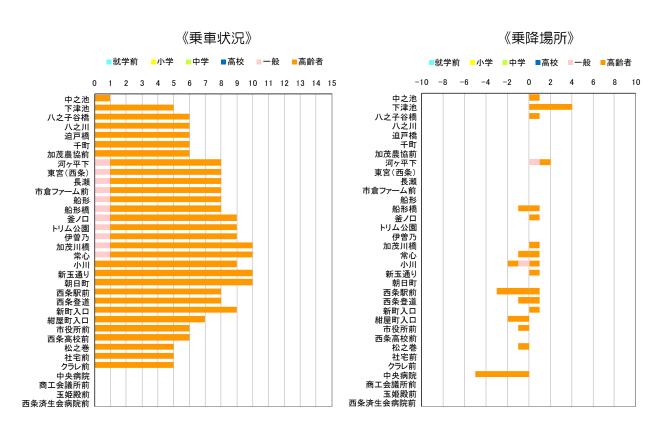


加茂線乗降調查結果(済生会病院⇒中之池・川来須)

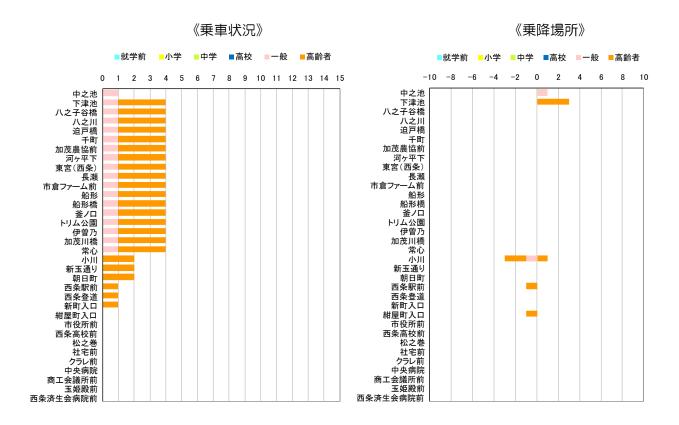
■中之池 7:14 発⇒済生会病院 7:58 着(9/17 日・9/18 日・9/19 日調査の合計)



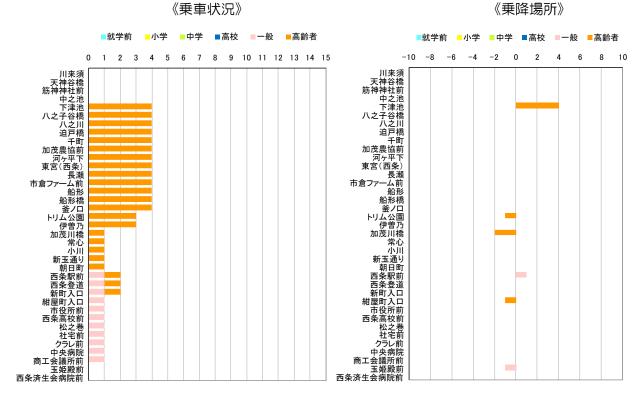
■中之池9:27発⇒済生会病院10:11 着(9/17日・9/18日・9/19日調査の合計)



■中之池 13:17 発⇒済生会病院 14:01 着 (9/17 日・9/18 日・9/19 日調査の合計)

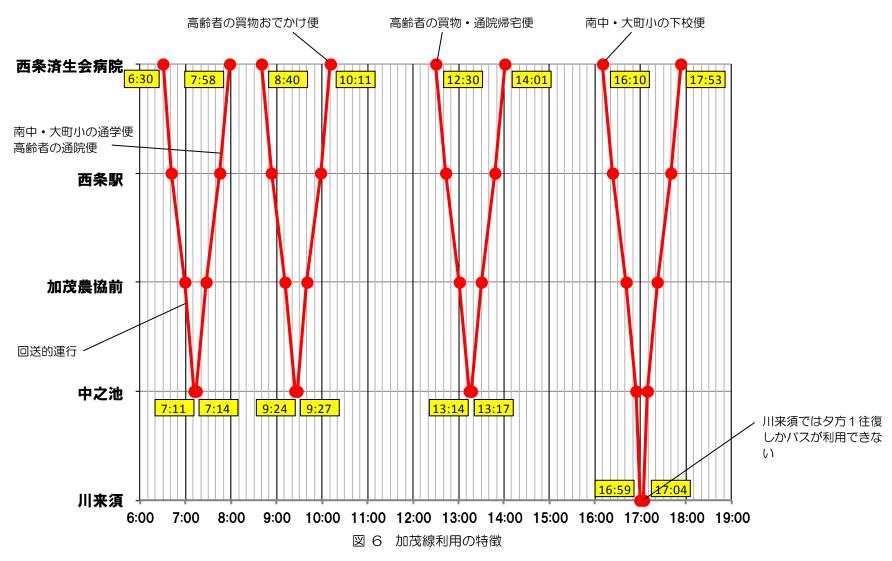


■川来須 17: O4 発⇒済生会病院 17:53 着 (9/17 日・9/18 日・9/19 日調査の合計)



(3) 加茂線利用の特徴

○乗降調査結果から、加茂線の利用の特徴は以下のように整理される。



1-3 住民の移動ニーズ (アンケート調査結果より)

(1)調査概要

○調査対象:加茂地区住民(公共交通を必要としている人を中心に実施)

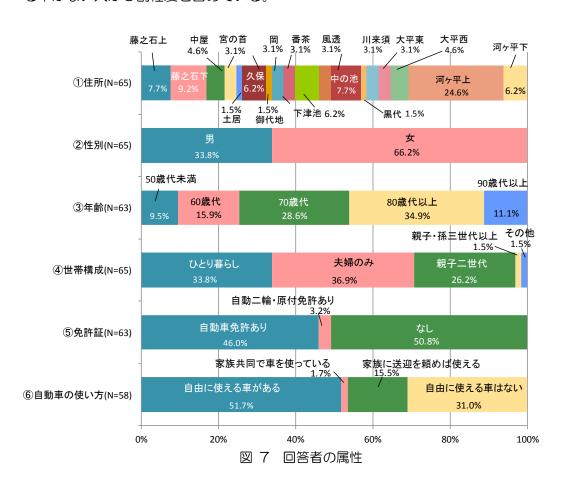
〇調査時期:平成27年8月~9月

○調査方法:ミニデイサービス等の機会を通して、対象者にアンケート用紙を配布。

〇回収枚数:65枚

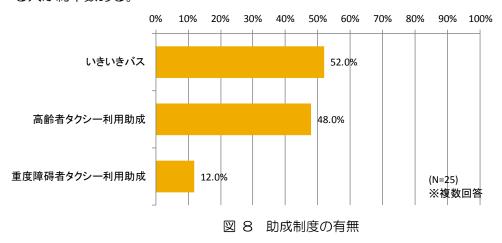
(2)回答者属性

- ○回答者の住所は「河ヶ平上」の割合が最も高かった。
- 〇性別は女性が3分の2を占めている。
- ○年齢は7歳以上が8割近くを占めている。
- 〇世帯構成としては、「夫婦のみ」の世帯の割合が最も高いが、「一人暮らし」世帯も3分の 1を占めている。
- ○回答者の半分は運転免許証を持っていない。
- 〇自家用車を自由に使える人が約5割、家族に送迎を頼めば使える人が1.5割、自由に使える車がない人が3割程度を占めている。



(3) 助成制度の有無

○回答者のうち、「いきいきバス制度」「高齢者タクシー利用助成」等の助成制度を受けている人が約半数ある。



(4) 1か月の外出回数

- 〇1ヵ月の外出回数は、全体集計では「8回以上」が約6割を占めており、週1回以内(月1回未満~4回)と回答した割合は4割程度ある。
- ○運転免許証を持たない人だけの集計では、「8回以上」が4弱割で、週1回以内と回答した割合は6割程度となっており、運転免許証を持たない人の外出機会は少ない。

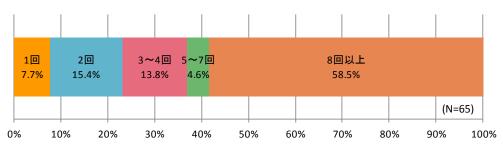


図 9 1 か月の外出回数(全体集計)

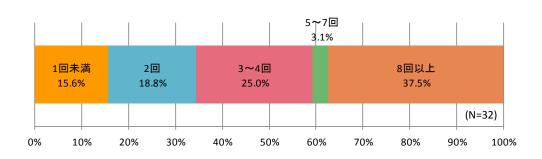


図 10 1か月の外出回数(運転免許証を持たない人の集計)

(5) よく外出する曜日

○1 週間のうち、よく外出する曜日を聞いたところ、火曜日を挙げる割合が最も高く、次いで水曜日、土曜日、木曜日等の順番となっている。

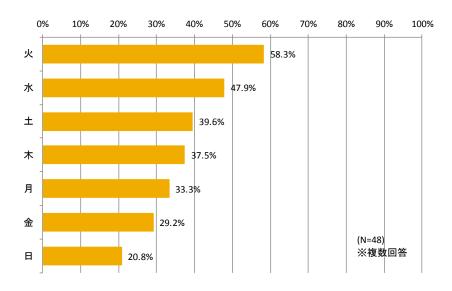


図 11 よく外出する曜日

(6) 外出目的地(通院)

〇通院の際の目的地については、「西条中央病院」を挙げる割合が最も高く、以下、「済生会 西条病院」「かりやま整形外科」「山元眼科」「村上病院」等と続いている。

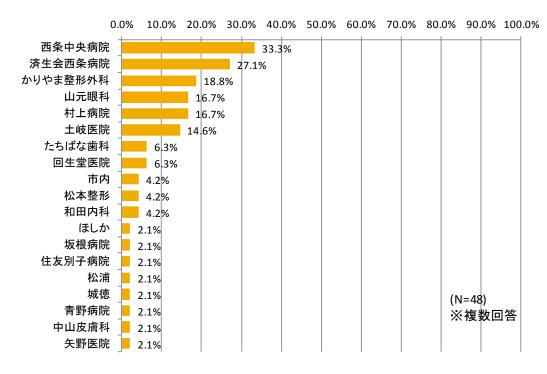
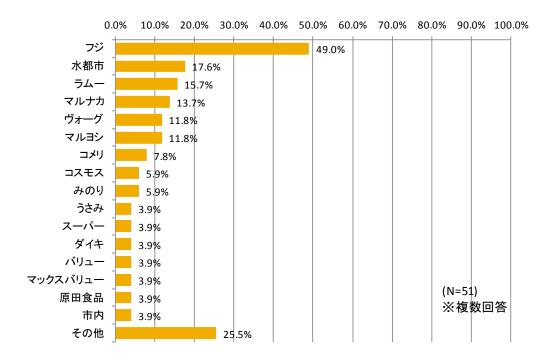


図 12 通院の目的地

(7) 外出目的地 (買物)

〇買物先としては、「フジ」を挙げる割合が半数近くに及び、以下、「水都市」「ラムー」「マルナカ」「ヴォーグ」「マルヨシ」等と続く。



※フジとフジグラン両店舗があり、フジグランと記載のあるところだけフジグランに分類。
※水都市本店と水都市みのりちゃん市場があり、水都市としか書かれていないものは水都市に分類。
※マックスバリューとフレッシュバリューがあり、バリューとしか記載のない店舗と分けている。

図 13 買物の目的地

(E) 下島山甲 玉禅 23 **30** (N) HH HH マルナカ 新田 ● 西条市西条 市民公園 普段行<病院·買物先(上位) (※ 文 LE CONTROL 明屋書店西条本店 ■ TSUTAYA 土岐医院・マックスバリュー 水都市 ₩ (X) ((予地方局庁舎 (**3**) ¥.

15

(8) 普段の主な移動手段

- 〇普段の主な移動手段は、全体集計では「自分で運転する自動車」を挙げる割合が最も高く、 次いで「タクシー」「せとうちバス」「自動車による送迎」等の順となっている。
- 〇運転免許証を持たない人だけの集計では、「タクシー」を挙げる割合が最も高く、以下「せ とうちバス」「自動車による送迎」「シニアカー」等と続いている。

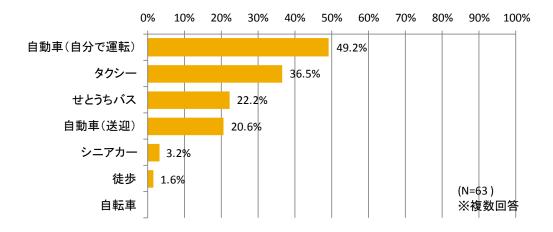


図 14 普段の主な移動手段(全体集計)

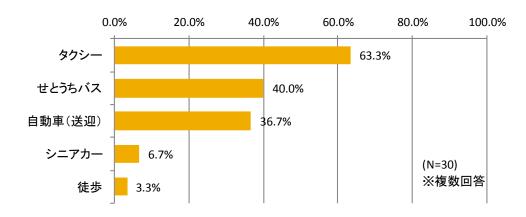


図 15 普段の主な移動手段(運転免許証を持たない人の集計)

(9)「せとうちバス」の1か月の利用回数

- ○「せとうちバス」を利用すると回答したのは3割弱(18人)で、そのうちの半数以上が「月8回以上」利用すると回答している。
- 〇「せとうちバス」を利用すると回答した人の住所は「中の池」「河ヶ平下」の割合が高く、 全体的に国道 194 号沿いの集落の割合が高い。

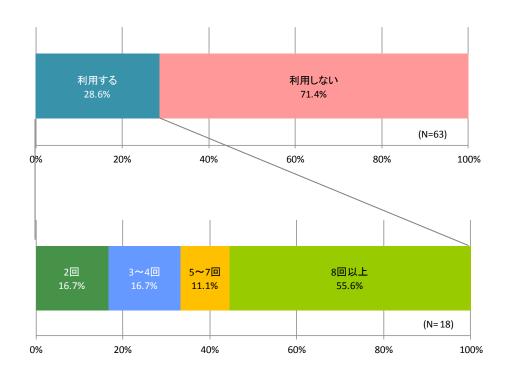


図 16 「せとうちバス」を利用する割合と 1 か月当りの利用回数

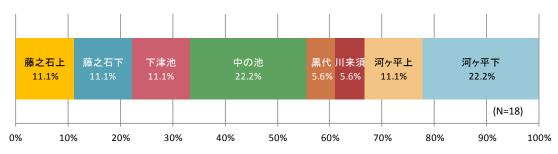


図 17 「せとうちバス」を利用すると回答した人の住所

表 4 「せとうちバス」の利用状況

利用しない人の住所

住所	回答数	構成比
河ヶ平上	14	31.1%
久保	4	8.9%
藤之石上	3	6.7%
藤之石下	3	6.7%
中屋	3	6.7%
大平西	3	6.7%
宮の首	2	4.4%
超	2	4.4%
晩茶	2	4.4%
下津池	2	4.4%
風透	2	4.4%
大平東	2	4.4%
土居	1	2.2%
御代地	1	2.2%
中の池	1	2.2%
計	45	100.0%

利用する人の住所

住所	回答数	構成比
中の池	4	22.2%
河ヶ平下	4	22.2%
藤之石上	2	11.1%
藤之石下	2	11.1%
下津池	2	11.1%
河ヶ平上	2	11.1%
黒代	1	5.6%
川来須	1	5.6%
計	18	100.0%

(10)「せとうちバス」に感じること

○「せとうちバス」に感じることとしては、「バス停が遠い」との回答割合が最も高く、以下 「行きたい時刻に便がない」「行きたい場所に行けない」「帰りの待ち時間が長い」などが 挙がっている。

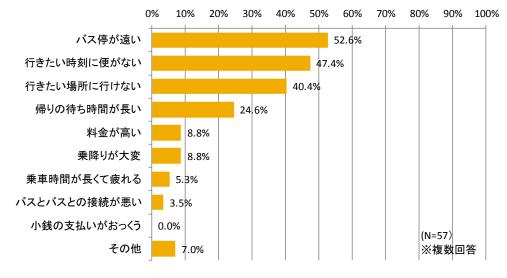


図 18 「せとうちバス」に感じること

(11) タクシーの1か月の利用回数

○タクシーを利用すると回答した人の割合は全体の役3分の1で、1か月当りの利用回数は月3~4回までが全体の8割を占めていることから、タクシーの利用は週1回までの利用が多数であることがわかる。

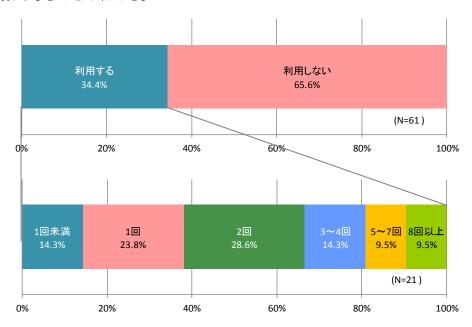


図 19 タクシーを利用する割合と 1 か月当りの利用回数

表 5 タクシーの利用状況

タクシーを利用する人の住所

住所	回答数	構成比
河ヶ平下	4	19.0%
藤之石下	3	14.3%
藤之石上	2	9.5%
宮の首	2	9.5%
風透	2	9.5%
中屋	1	4.8%
久保	1	4.8%
御代地	1	4.8%
岡	1	4.8%
下津池	1	4.8%
中の池	1	4.8%
大平西	1	4.8%
河ヶ平上	1	4.8%
計	21	100.0%

タクシーを利用しない人の住所

住所	回答数	構成比
河ヶ平上	14	35.0%
藤之石上	3	7.5%
藤之石下	3	7.5%
久保	3	7.5%
下津池	3	7.5%
中の池	3	7.5%
中屋	2	5.0%
晩茶	2	5.0%
大平東	2	5.0%
大平西	2	5.0%
土居	1	2.5%
퓝	1	2.5%
黒代	1	2.5%
計	40	100.0%

(12) タクシーについて感じること

〇タクシーの利用について感じることとしては、「料金が高い」を挙げる割合が最も高く、次いで「予約するのが面倒」などと続いている。

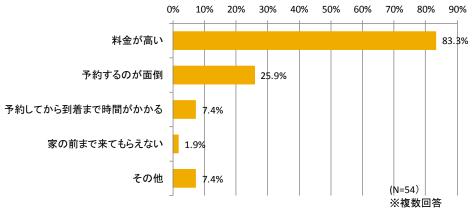
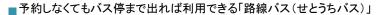


図 20 タクシーについて感じること

(13) 望む交通手段

〇自分にとって望ましい交通手段としては、「乗合タクシー」を挙げる割合が半数となってい る。



■予約した複数の人が1台のタクシーに乗り合わせる「乗合タクシー」



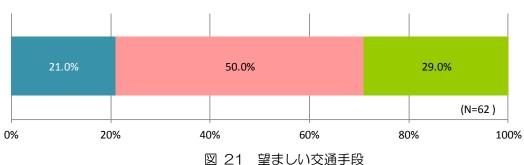


表 6 その他の内容

内容	件数
国道沿は予約なしの定時発着の路線乗合タクシーで、他の集落は予約制の 乗合タクシー	17
今のままでよい	1

(14) 自由意見

表 7 自由意見

住所	性別	年代	自由意見
下津池	女性	60代	国道194号線の場合は地区以外の人も多く、路線バス的のマイクロバスを走らせてもらいたいです。行く末、私もバスです。高知の方も走ればいいがこれは無理。
藤之石下	女性	70代	自分で運転できるが、新しい交通手段があれば利用する。買い物 先まで行っても、付添が必要な人がいる。
河ヶ平上	男性	70代	デマンド乗合タクシーを実施している先進地を視察したり
河ヶ平上	女性	70代	乗合タクシーを実施している所を視察したり
河ヶ平上	男性	80代	バスを走らせてください
河ヶ平上	男性	30代	乗合タクシーの先進地視察をしてほしい
河ケ平上	男性	70代	国道沿路線バス(せとうちバス)を廃止し、乗り合いタクシーになっても 75 歳以上のいきいきバス制度は乗り合いタクシーにも利用できるようにしてほしい。 乗り合いタクシーの乗車料金は一回片道 200 円位にしてほしい。千町、藤之石本郷、荒川での予約制の乗合タクシーは週に1~2回位は運行してほしい。その場合、沿線の河ヶ平上下の住民も利用出来る様にして欲しい。

加茂地区の生活・公共交通に関するアンケート調査

1	住 所	1. 藤之石上 2. 藤之石下 3. 中屋 4. 中谷 5. 宮の首 6. 土居 7. 久保 8. 御代地 9. 岡 10. 晩茶 11. 八の川下 12. 吉居 13. 下津池 14. 風透 15. 中の池 16. 黒代 17. 川来須 18. 大平東 19. 大平西 20. 下分 21. 河ヶ平上 22. 河ヶ平下
2	性 別	1. 男 2. 女
3	年 龄	()歳 (平成27年8月1日現在)
4	世帯構成	1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 親子二世代 4. 親子・孫三世代以上 5. その他
(5)	免許証	1. 自動車免許あり 2. 自動二輪・原付免許あり 3. なし
6	自動車の 使 い 方	 自由に使える車がある 家族に送迎を頼めば使える 自由に使える車はない
7	助成制度 の 有 無	1. 重度障害者タクシー利用助成2. 高齢者タクシー利用助成3. 外出支援サービス4. いきいきバス

[問2] 普段の生活についておたずねします。

_	-ヶ月におよそ()	日は外出する
②よく外出する	6曜日があれば教えてください。		
	曜日	曜日	曜日
3通院や買物	で外出する場合の目的地を教え	えてください。	
通院		買物	

④普段の主な移動手段すべてにOをしてください。

_									
	1.	自動車(自分で)	運転)	2.	自動車	(送)	四)	3.	自動二輪•原付
	4.	シニアカー	5. せとう	ちバ	ス	6.	タクシー		7. 自転車
	8.	徒歩	9. その他	()	

【裏面もご回答ください】

1. 一ヶ月に約(_) 回程度利用する 2. 利用しない
とうちバスについて、あなたが感じ	ることすべてにOをしてください。
1. 行きたい時刻に便がない	2. 行きたい場所に行けない
3. 帰りの待ち時間が長い	4. バスとバスとの接続が悪い
5. 料金が高い	6. バス停が遠い
7. 乗り降りが大変	8. 小銭の支払いがおっくう
9. 乗車時間が長くて疲れる	10. その他()
]]「タクシー」についておたす	でわしき ま
	用しますか。<u>片道を1回としてお答えください。</u> マクシーを利用する場合は「片道1回」となります。
· • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
ァシーについて、あなたが感じるこ	とすべてにOをしてください。
	2. 料金が高い
3. 家の前まで来てもらえない	4. 予約してから到着まで時間がかかる
5. その他 (
] あなたに必要な公共交通	
なたは、次のどちらの交通手段	を望まれますか。
1. 予約しなくても、バス停まで	で出れば利用できる「路線バス(せとうちバス)
2. 予約した複数の人が1台のタ	タクシーに乗り合わせる「乗合タクシー」
3. その他 (
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
】 公共交通について、 ご意見	見・ご要望がありましたらごお書きくださ

[信] 「せとうちバス」についておたずねします。

1-4 移動に関する課題

(1) 交通空白地域への対応

○前述のように、加茂地区は国道 194 号沿いに点在する集落と、国道から離れた高台に点在する集落があり、国道沿いは路線バスが利用できるが、高台にある集落はバス停までの 距離及び標高差が大きいため、バスを利用することが困難な交通空白地域となっている。

(2) 地域間格差の是正

〇路線バスが利用できる地域に住む 75 歳以上の高齢者は、加茂線を片道 100 円で安価に 利用することができるが、高台にある集落で利用できる公共交通手段はタクシーしかなく、 片道 4,000 円程度の運賃を払って市街地へ行かなければならない。これらの地域間格差の 是正が課題となっている。

1-5 対応策

(1) 加茂線の対応

○加茂線は加茂地区に住む小中学生の通学便として日常的に利用されているほか、沿線住民 の通院・買物便として機能しているため、今後も維持していく必要がある。

(2) 交通空白地域への対応

- ○交通空白地域である高台の集落(藤之石、千町、荒川)については、急斜面であることや 道が狭隘であることを勘案すると、大型のバスの乗り入れは困難であり、タクシーを利用 した移動手段の提供が現実的と考えられる。
- ○交通空白地域へのタクシーを利用した移動サービスとしては、以下のようなものが考えられる。

①デマンド型乗合タクシーの導入

【対象地域】藤之石、千町、荒川地区

【運行内容】1 台のタクシー車両に事前予約した利用者が乗りあって移動するサービス

【運行区間】運行区間については、以下のような設定が考えられる。

- ・藤之石・千町地区⇔西条市街地、荒川地区⇔西条市街地(ただし、市街地内では乗降ポイントを数か所に絞り込む。)
- ・藤之石・千町地区⇔交通結節点となるバス停(バス停でバスに乗り換えて 市街地へ移動)
- 【運行回数】住民アンケート調査やヒアリング結果から、交通空白地域の住民の外出回数は月3~4回以内であることから、月3~4回(1往復)の運行とする。具

体的には、利用対象者数等を勘案し、藤之石・千町地区で月3回、荒川地区で月1回程度を想定する。

【運行曜日】住民アンケート調査で外出する曜日として火曜日の比率が最も高かったこと から、火曜日に設定する。

【運行時間】8時~9時頃各地区を出発し、午後に帰宅できる時間帯とする。

【利用料金】新居浜の乗合タクシーは 1 乗車(片道)500円であり、その事例にならって市街地まで乗り入れる運行形態の場合は1乗車500円、結節点となるバス停まで乗り入れる場合は1乗車300円程度を想定する。

【使用車両】小型タクシーを基本とし、予約が多い場合はジャンボタクシーで対応する。

【予約期限】車両の手配等を考慮し、運行日前日午後5時を予約締切とする。

②新たなタクシー助成制度の創設

【対象地域】藤之石、千町、荒川地区

【助成内容】居住地から最寄りバス停(河ヶ平、東宮)までのタクシー料金を助成

【助成要件】市域全体での公平性を確保するため、バス路線が廃止となった地域及びバス 停から著しく距離がある地域に居住する、自分で車を運転できない人といっ た要件を別途設ける。

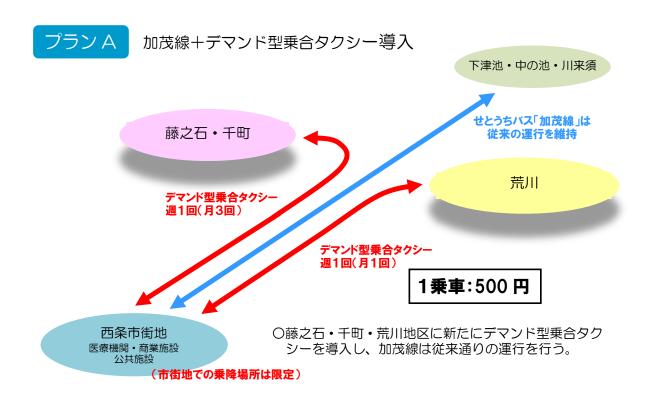


図 23 プランA

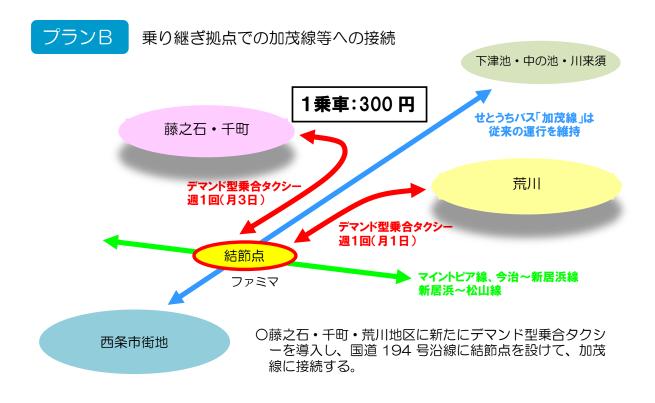


図 24 プランB

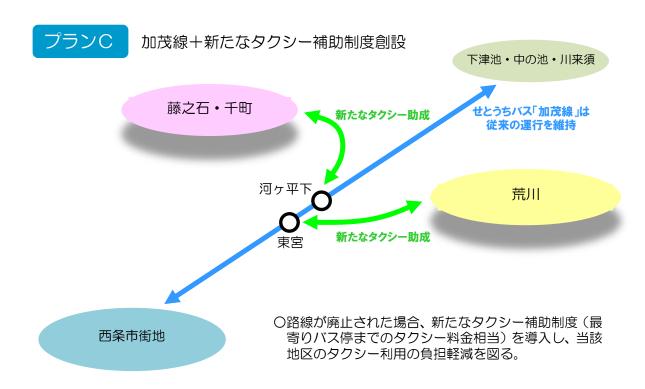


図 25 プランC

Ⅱ. 楠窪地区

2-1 地域の状況

(1)位置・地勢

○楠窪地区は旧丹原町中央部の山間地に位置し、志河川沿いに道路と民家が点在する谷あい の地区である。

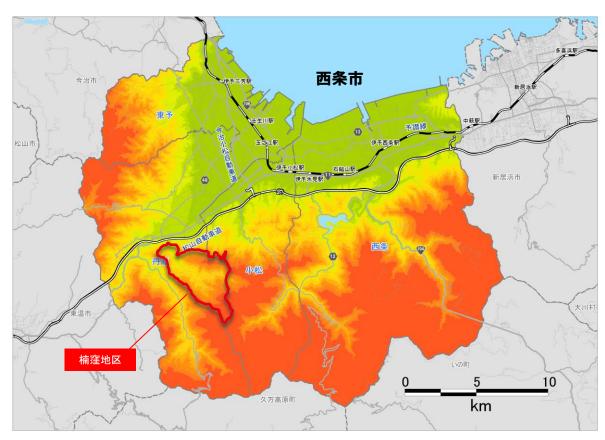


図 26 当該地域の地勢

(2) 人口

〇楠窪地区は16世帯、23人の小規模な集落で、高齢化率は73.9%と高い。

								高齢化		平均年齡	i		
集落名	世帯数	9 3	男性	女性	65 歳 以上	男性	女性	率 (%)	男性	女性	平均		
楠窪	16	23	12	11	17	6	11	73.9%	63	86	74		

表 8 楠窪地区の世帯数、人口、高齢化率の状況

2-2 楠窪線の状況

(1)運行概要

- ○楠窪線は楠窪⇔周桑営業所間を1日2往復する路線で、系統キロは23.5kmである。
- ○平成25年の年間利用者数は7,305人で、収支率は34.8%となっている。

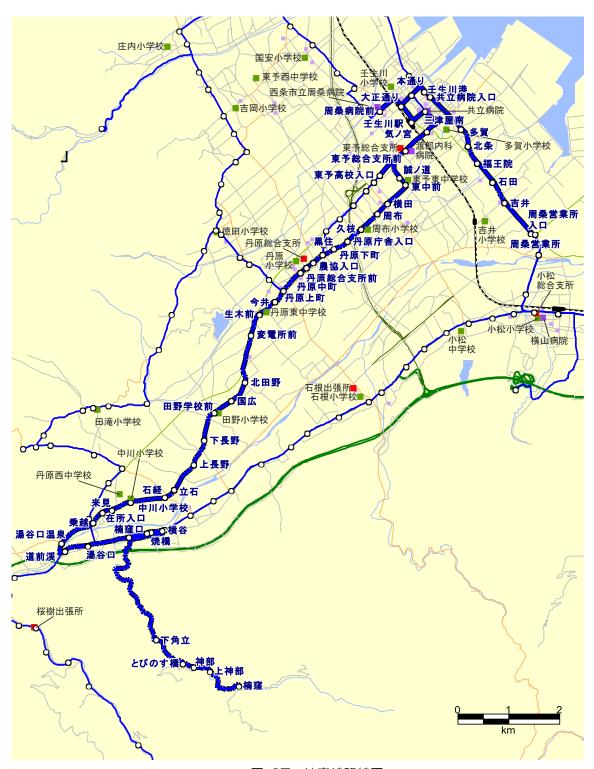


図 27 楠窪線路線図

(2) 利用状況 (乗降調査結果より)

○平成25年に行った乗降調査の結果は以下のとおりである。

表 9 調査結果の概要

調査日	平成 25 年 10 月 8 日 (火) ~10 日 (木)					
延べ利用者数	上り6人(2.0人/日)	下り 14 人(4.7 人/日)				
1便当たり利用者数	上り 1.0 人/便	下り 2.4 人/便				

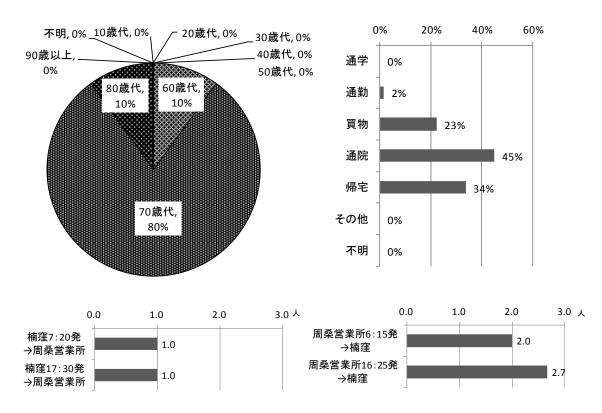


図 28 便別乗降者数(1日当たり平均)

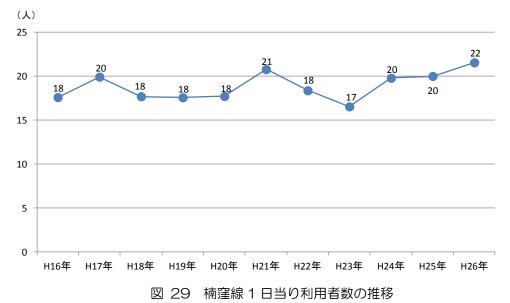


表 10 楠窪線の年間利用者数の推移

項目	H16年	H17年	H18年	H19年	H20 年	H21 年	H22 年	H23年	H24 年	H25年	H26年
年間利用者数	6,427	7,277	6,460	6,417	6,471	7,591	6,710	6,040	7,228	7,305	7,872
1日当り利用者数	18	20	18	18	18	21	18	17	20	20	22

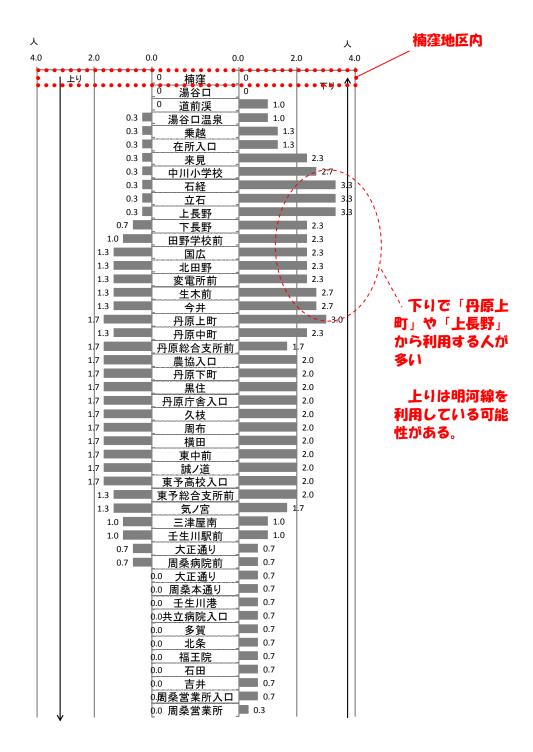
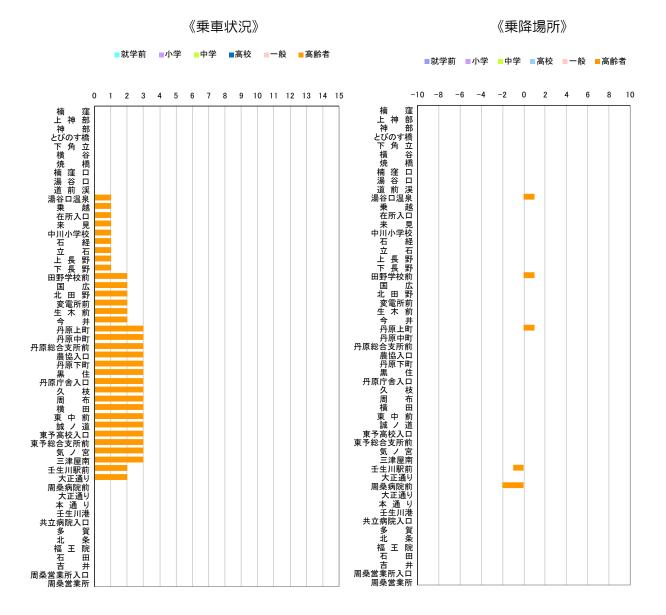


図 30 停留所別乗降者数(1日当たり平均)

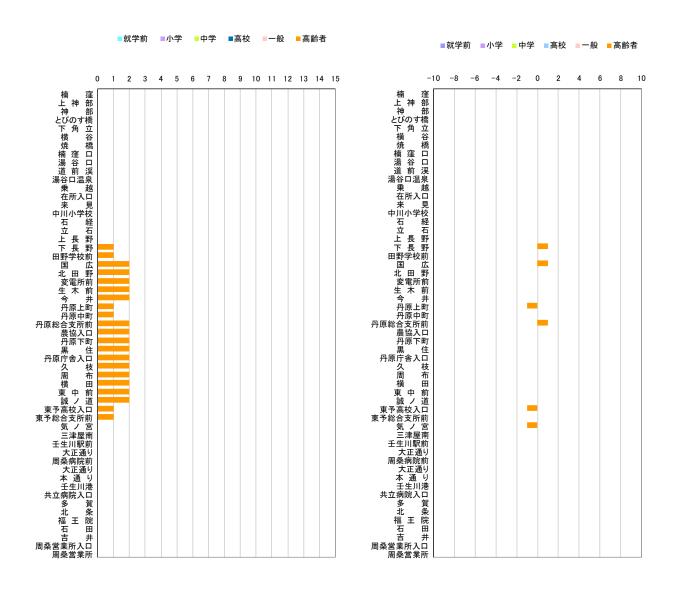
楠窪⇒周桑営業所

■楠窪7:20発⇒周桑営業所8:24 着(10/8日・10/9日・10/10日調査の合計)



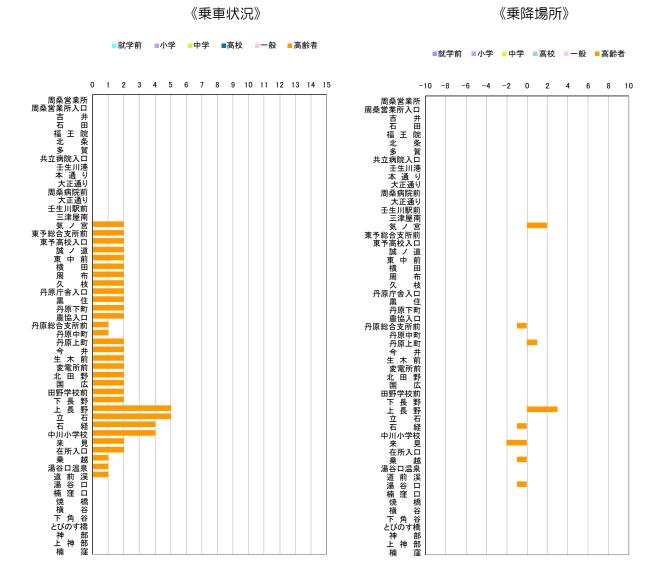
■楠窪 17:30 発⇒周桑営業所 18:34 着(10/8 日・10/9 日・10/10 日調査の合計)



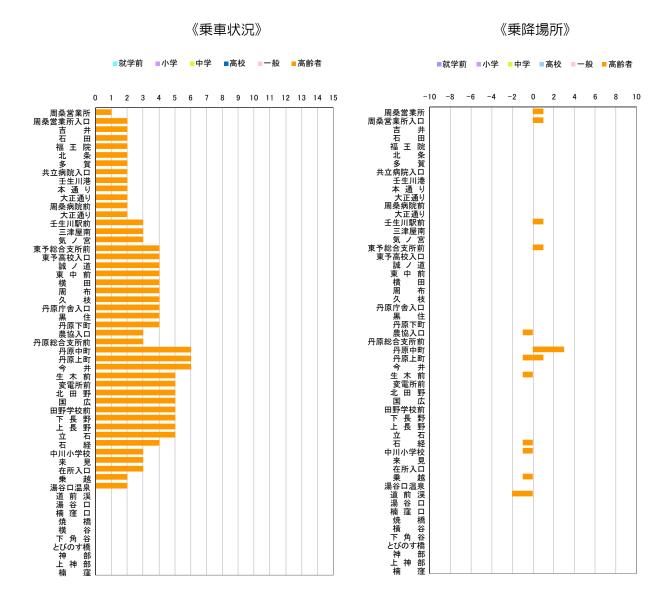


周桑営業所⇒楠窪

■周桑営業所 6:15 発→楠窪 7:19 着 (10/8 日・10/9 日・10/10 日調査の合計)



■周桑営業所 16:25 発⇒楠窪 17:29 着(10/8 日・10/9 日・10/10 日調査の合計)



(3) 楠窪線利用の特徴

○楠窪線の利用者は高齢者が中心で、通学による利用はみられない。また、湯谷□~楠窪間の利用はほとんどない。

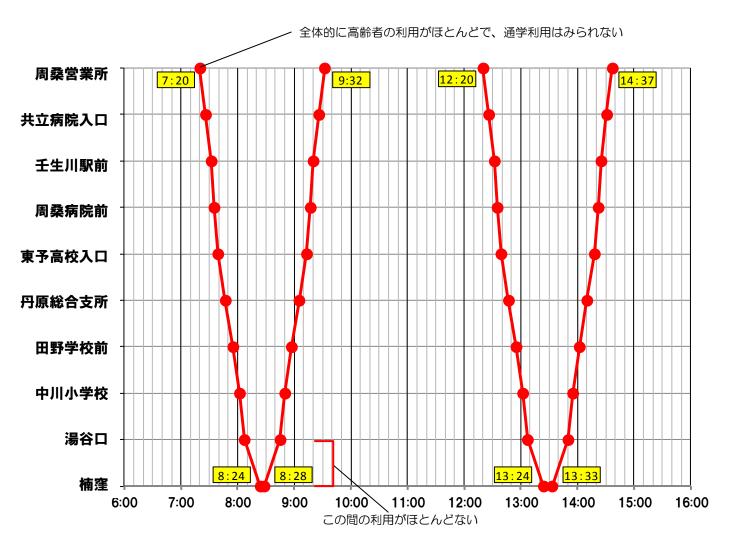


図 31 楠窪線の特徴

2-3 住民のニーズ (アンケート調査結果より)

(1)調査の概要

○調査対象:楠窪地区住民(公共交通を必要としている人を中心に実施)

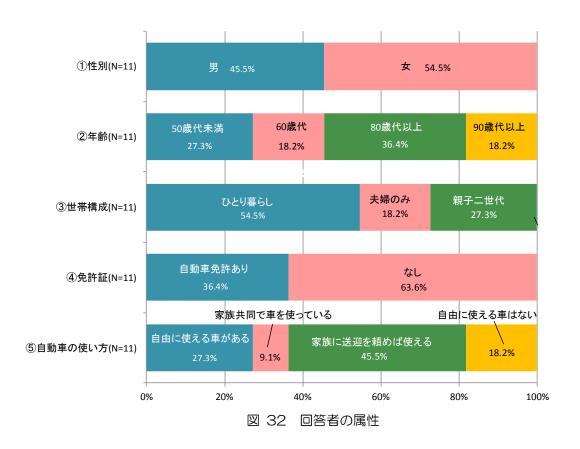
〇調査時期:平成27年9月

〇調査方法:対象者宅を訪問し、聞き取りアンケートを実施。

○回収枚数:11枚

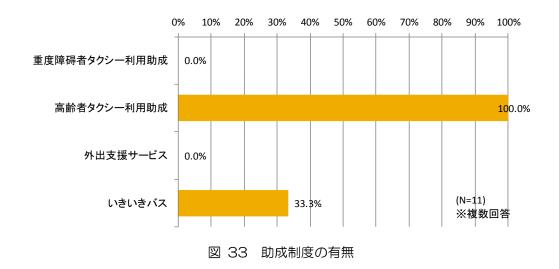
(2)回答者属性

- ○性別では女性がやや多い。
- ○年齢は80歳以上が半数を超えている。
- 〇一人暮らし世帯が半数を超えている。
- ○運転免許証を持たない人の割合が6割を超えている。
- ○家族に送迎を頼めば自動車が使える割合が45.5%と最も高い割合となっている。



(3) 助成制度の有無

○回答者全員が高齢者タクシー利用助成制度を利用している。



(4)1か月の外出回数

○1 か月の外出回数は 1 回が半数近くあり、月 3~4 回と合わせると、全体の 7 割以上が月 4 回以内(週 1 回以内)の外出回数となっている。

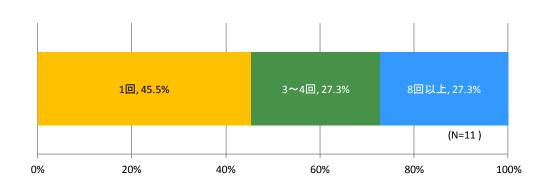


図 34 1か月の外出回数

(5) よく外出する曜日

〇よく外出する曜日としては、月曜日、水曜日、金曜日が挙がっている。

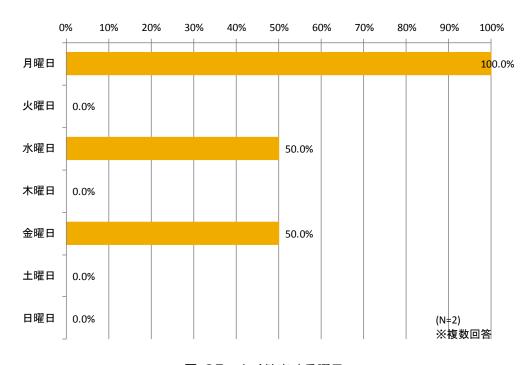


図 35 よく外出する曜日

(6) 外出目的地(通院)

○通院の目的地としては「河野医院」を挙げる割合が最も高く、次いで「加藤整形外科」「往 診」「平田クリニック」等と続いている。

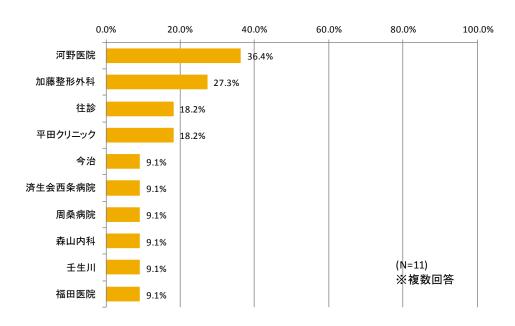


図 36 外出目的地 (通院)

(7) 外出目的地 (買物)

○買物先としては「とうしょく」を挙げる割合が最も高く、以下「ヤマサンセンター」「フジ」 「マルナカ」等と続く。

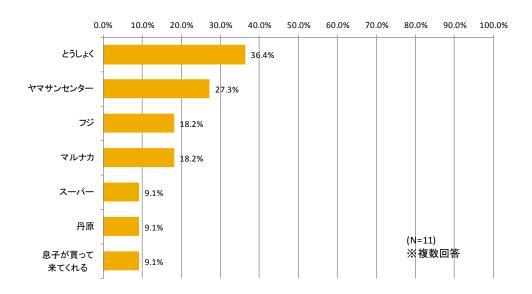


図 37 外出目的地(買物)

藤之石甲 西条市市大川 天神山人八西 保野 動作環境 免責事項 (C)NTT Resonant (C)ZENRIN 津越 千町6号 千町3号 中野丙 荒川丙 荒川乙 荒川甲 東予地方局 温瀬2 百合城 西泉甲 黑瀬甲 とうしょくチェーン氷見店 坂元乙 西田乙 湯久保 中田田 Honda Cars 大保木5号 水見東新開 大保木乙 **米見丁 (型)** CAN CAN 大保木丁 大保木已 置存せ 平田クリニック 広江 古坊 西条市 小松町大郷 途中之川 万石 小松町明穂 とうしょく丹原店 伊予三芳駅 壬生川耳鼻咽喉科 丹原町寺尾 丹原町明穂 ヤマサンセンター丹原店 丹原町長野 福成寺 丹原町明河 佐川田之上 丹原町馬川 角立 8 海豚中田 本谷公園 丹原町川根 8 丹原町来見 152-大倉 田園 河之内 -FE (128) 工

普段行<病院·買物先(上位)

(8) 普段の主な移動手段

○普段の移動手段としては「自分で運転する自動車」「自動車による送迎」が多い。

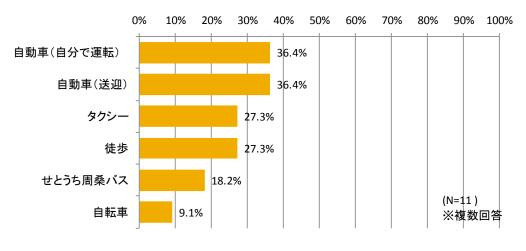


図 38 普段の主な移動手段

(9)「せとうち周桑バス」の1か月の利用回数

〇「せとうち周桑バス」を利用すると回答した割合は2割弱で、1か月の利用回数は1回未満となっており、ほとんど利用されていない。

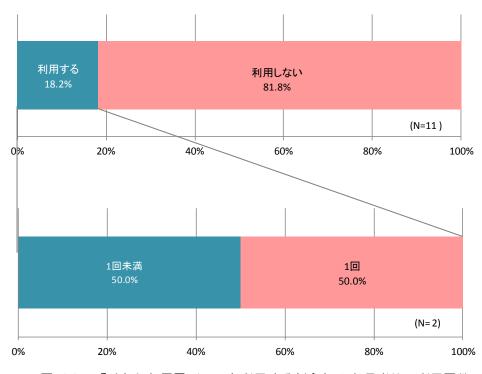


図 39 「せとうち周桑バス」を利用する割合と 1 か月当りの利用回数

(10)「せとうち周桑バス」に感じること

○「せとうち周桑バス」に感じることとしては、「行きたい時刻に便がない」を挙げる割合が 最も高く、次いで「バス停が遠い」「帰りの待ち時間が長い」等と続いている。

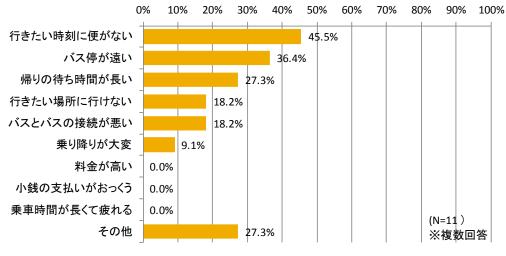


図 40 「せとうち周桑バス」に感じること

(11) タクシーの1か月の利用回数

○タクシーを利用すると回答した割合は3割弱で、利用回数は「せとうち周桑バス」と同様 に月1回以下と非常に少ない。

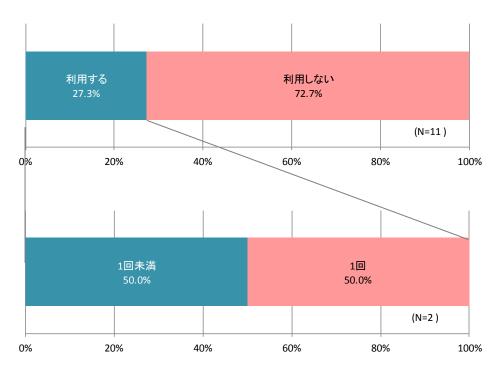


図 41 タクシーを利用する割合と 1 か月当りの利用回数

(12) タクシーについて感じること

○タクシーについて感じることとしては、「料金が高い」を挙げる割合が7割と高い。

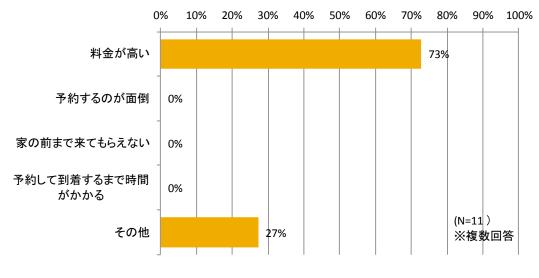


図 42 タクシーについて感じること

(13) 望む交通手段

○自分が望む交通手段としては、乗合タクシーを挙げる割合が6割と最も高い。

- ■予約しなくてもバス停まで出れば利用できる「路線バス(せとうちバス)」
- ■予約した複数の人が1台のタクシーに乗り合わせる「乗合タクシー」
- ■その他



図 43 望む交通手段

(14) 自由意見

表 11 自由意見

性別	年代	自由意見
男性	80代	タクシーに乗るようになるが、料金が高い
女性	女性 80代 問2の③買物の欄に(大きい店は歩くのが大変)大体は子供が買ってきてくれると記載	
女性	90 代以上	あまり移動しない。年齢的にも
女性	80代	バスの補助をタクシーの補助に回してほしい
男性	60代	時間が悪い
女性	70代	バスは時間が合わない

楠窪地区の生活・公共交通に関するアンケート調査

	<u> </u>	生	ויל	I.		2 .		
	2	年	始	()	歳 (平成2)	7年8月1日現在)		
	3	世帯	構成	1. ひとり暮らし 4. 親子・孫三世代以		み 3. 親子二世代 . その他		
	4	免言	午証	1. 自動車免許あり	2. 自動二輪	• 原付免許あり 3. なし		
	5	自動 使 し	車の N 方			家族共同で車を使っている 自由に使える車はない		
	6	助成の 有	制度	1. 重度障害者タクシ 3. 外出支援サービス		 高齢者タクシー利用助成 いきいきバス 		
(問2) 普段の生活についておたずねします。 ①-ヶ月のうち外出する日数を教えてください。								
			ーケ	月におよそ()	日は外出する		
②よく外出する曜日があれば教えてください。								
				曜日	曜日	曜日		
3	③通院や買物で外出する場合の目的地を教えてください。							
	通院				買物			
④普段の主な移動手段すべてにOをしてください。								
	2	4. シ	ニアカ	自分で運転) 2. É - 5. せとうちバス 9. その他(3. 自動二輪・原付7シー 7. 自転車		
_								

【裏面もご回答ください】

		行きはせとうち周桑バス、帰	くそ何回利用しますか。片道を1回としてお答えください。 当りはタクシーを利用する場合は「片道1回」となります 一)回程度利用する 2. 利用しない
	۱.		/ 回性反利用する 2. 利用しない
) 世 신	とうち	5周桑バスについて、あなた	rが感じることすべてにOをしてください。
	1.	行きたい時刻に便がない	2. 行きたい場所に行けない
	3.	帰りの待ち時間が長い	4. バスとバスとの接続が悪い
	-	料金が高い	6. バス停が遠い
	7.	乗り降りが大変	8. 小銭の支払いがおっくう
	9.	乗車時間が長くて疲れる	10. その他()
94	3	「タクシー」についておたる	ずねします。
			川用しますか。 片道を1回としてお答えください。
	【例】	行きはせとうち周桑バス、帰	号りはタクシーを利用する場合は「片道1回」となります
	1.	ーヶ月に約() 回程度利用する 2. 利用しない
h h	75,_	_について ちかたが成じて	ことすべてにOをしてください。
	-	予約するのが面倒	2. 料金が高い
	- •	家の前まで来てもらえない その他(N 4. 予約してから到着まで時間がかかる)
56	3 1 a	あなたに必要な公共交通	通についておたずねします。
		は、次のどちらの交通手段	
	1.	予約しなくても、バス停まで	
	2.	予約した複数の人が1台の)タクシーに乗り合わせる「乗合タクシー」
	3.	その他(
5 6	2	公共交通について、ご意	え見・ご要望がありましたらごお書きください。

2-4 移動に関する問題点・課題

(1) 楠窪線の効率化

○乗降調査結果に見られるように、楠窪線は湯谷□~楠窪間の利用がほとんどないため、この区間を廃止するなどの効率化が求められる。路線を短縮することで運行経費の抑制につながる。

(2) 交通空白地域への対応

- 〇楠窪地区は少数の世帯が山間地の斜面に点在しており、楠窪バス停まで距離もあって路線 バスの利用が困難な地域であるため、前述のように利用がほとんどない。効率化を図るために楠窪線を短縮することになれば増々交通空白が進行することから、何らかの移動サービスの提供が必要となる。
- ○交通空白地域へのタクシーを利用した移動サービスとしては、以下のようなものが考えられる。

2-5 対応策

(1) 楠窪線の対応

○楠窪線は周桑営業所~湯谷□間とし、湯谷□~楠窪間の路線を廃止して効率化を図る。

(2) 交通空白地域への対応

○交通空白地域へのタクシーを利用した移動サービスとしては、以下のようなものが考えられる。

①デマンド型乗合タクシーの導入

【対象地域】楠窪地区

【運行内容】1 台のタクシー車両に事前予約した利用者が乗りあって移動するサービス

【運行区間】運行区間については、以下のような設定が考えられる。

・楠窪地区⇔丹原市街地(ただし、市街地内では乗降ポイントを数か所に絞り込む。)

【運行回数】住民アンケート調査やヒアリング結果から、交通空白地域の住民の外出回数は月1回以内であることから、月数回(1往復)の運行とする。

【運行曜日】住民アンケート調査で外出する曜日として月曜日の比率が最も高かったが、 サンプル数が少ないことから、別途協議して決定する。

【運行時間】8時~9時頃各地区を出発し、午後に帰宅できる時間帯とする。

【利用料金】新居浜の乗合タクシーは 1 乗車(片道) 500 円であり、その事例にならっ

て 1 乗車 500 円と設定する。

【使用車両】小型タクシーを基本とし、予約が多い場合はジャンボタクシーで対応する。

【予約期限】車両の手配等を考慮し、運行日前日午後5時を予約締切とする。

②新たなタクシー助成制度の創設

【対象地域】楠窪地区

【助成内容】居住地から最寄りバス停(湯谷口)までのタクシー料金を助成

【助成要件】市域全体での公平性を確保するため、バス路線が廃止となった地域及びバス 停から著しく距離がある地域に居住する、自分で車を運転できない人といっ た要件を別途設ける。

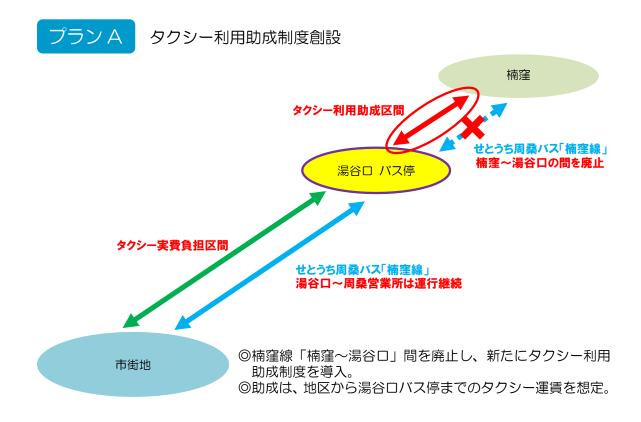


図 44 プランA

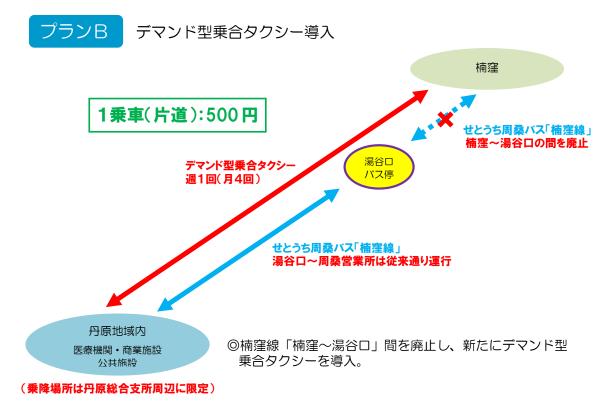


図 45 プランB